

平成 28 年度 自己改革への取り組み状況について

政府が進める農協改革の進展の中には、信用事業分離や准組合員の事業利用制限など、これまでの JA のあり方を根本的に変える提案がなされています。平成 28 年 4 月に農協法が改正され、JA の自己改革が求められている中で、JA 大北では組合員・地域に愛され支持される JA であり続けるため、将来を見据えた未来を拓く自己改革に取り組んでいます。

我々は総合事業の堅持と地域・組合員に必要とされる JA であり続けるために、組合員・地域とともに一步先の JA をめざし改革に取り組めます。

(1) 農業開発基金活用による地域農業振興への取り組み

当 JA を含む JA 長野県グループでは農業振興ビジョンの実践に向け、新品目・新技術の導入、新規就農者など生産者に直接支援を行うため「JA 長野県農業開発基金」を平成 21 年度から造成してきました。また当 JA 独自の「JA 大北農業開発積立金」を積み立ててきました。当 JA ではこの基金を活用して次のような取組みを行ってきました。

- ・園芸振興における苗、資材支援
- ・農業経営支援対策：肥料・農薬支援
- ・重点品目における省力化機械導入支援



タマネギ自動選別機

(2) 農業所得増大、JA への結集力向上に向けた取り組み

農家組合員の皆様の農業所得を維持・確保し、農業基盤を守るため、カントリーエレベーターや、集出荷場の設備の維持・更新の投資等を行っています。

- ・色彩選別機の導入により、高品質米の生産、そばの乾燥施設の新設により、良質そばの販売に努めています。
- ・農家手取りの向上、直接販売の拡大、JA 結集力の向上にむけ直売所えっこの里を新設し、より多くの農産物を販売できるように取り組んでいます。
- ・春肥予約注文の価格低減により農業所得の増大に取り組んでいます。



色彩選別機

(3) 准組合員や地域の皆さんへ「食」と「農」の理解を深め、地域農業の応援団を拡大するための取り組み

- ・農業を知ってもらうための体験活動等を行っています。(青壮年部によるチャイルドファーム、安曇野まつかわ農業小学校ほか)
- ・リンゴオーナーを募集し、地産農産物の消費拡大を進めています。
- ・学校給食への地元農産物の提供等、農業や地元農産物を理解してもらうための取組みを進めています。
- ・准組合員の皆様や地域の皆様に農業・農協を理解してもらうために組合員加入促進チラシを作成・新聞折り込み等で配布致しました。



青壮年部：保育園児ジャガイモ掘り体験

(4) 組合員や地域の皆さんとともに地域活性化にむけた取り組み

- ・組合員の意見を聞くため、支所運営委員会、地区別総代会、担い手との懇談会を開催しました。
- ・協同を担う人づくりとして「女性農業大学校」を開校しています。
- ・地域づくりの一つとして、買い物弱者を無くし、安心して暮らせるため、移動購買車の導入により生活を支えています。
- ・年金友の会等各組織において、様々な活動への応援を通じて、地域の仲間づくりに取り組みました。
- ・仲間づくりとして旅行やマレットゴルフ・ゲートボール大会を開催し、多くの皆さんに参加いただきました。



移動購買車

(5) 健康づくりと助け合い活動への取り組み

- ・高齢者が住み慣れたこの地で安心して暮らせるため、訪問介護・通所介護・介護予防支援・福祉用具貸与等の事業に取り組んでいます。
- ・組合員の健康管理と病気予防を推進するため、JA 厚生連病院と連携し、人間ドック・PET 受診者への助成を実施するとともに、アスティかたおかでの健康チェック保養を実施しました。
- ・行政からの委託を受け、包括支援事業（総合相談窓口）、生きがい対応型デイサービス、生活ホームヘルプ事業、生活支援派遣事業、運動機能向上教室など、地域の介護支援と介護予防、併せ利用者拡大への取り組みを行いました。



高齢者と児童クラブの交流会